

9月に入ってもカンボジアの雨季の状況は変わりません。ほぼ毎日、数時間降り続ける雨を見て、現場監督は屋根の建設作業を進めることにしました。屋根の作業が進むことで、内装の作業が進めやすくなります。内部壁面塗装だけでなく、床の整地作業なども行ないます。特に塗装や整地作業は出来るだけ雨に当たらないほうが良いので、現場監督は作業を更に早く進めるためにも屋根の建設を急ぐことにしたそうです。



### 屋根の骨組みが設置された校舎



骨組みを壁面上部に溶接していきます。使用している骨組みは、ある程度の長さで整えられています。しかし、現場の状況を確認しながら、現地で加工を行い、微調整を加えていきます。校舎の近くで骨組みを加工をする職人と上に登り骨組みの溶接を行なう職人にわかれ、骨組みを完成させていきます。骨組みの良し悪しで、学校の雨漏りに影響が出てしまうことがあります。

骨組み作業がある程度終了すると壁面の下地塗装を職人たちが始めました。元の色が灰色のセメントなので、下地として白を塗ることで、色が映りやすくなります。



### 脚立を使い塗装を行なう職人



身長よりも長い塗装道具を使用し、校舎内部を塗り上げていきます。それでも届かない場所には脚立を使用し、塗装を行ないます。



校舎近くには教育施設があるので、学生たちは作業の進行を見ることができます。付近に置かれた資材などは普段は見る事が出来ないものなので、みんな興味を持っているようです。毎回資材が来るたびに学生たちは職人にどんなものが来たんですかと聞いているそうです。

### レンガ保管場所

現場に屋根瓦が届くと学生たちは早速駆け出して来ました。これはなに？何に使うの？重たいの？様々な質問が職人たちに向けられています。仕事の合間をぬって、子どもたちのこういった質問に職人たちは答えていきます。

### ↓ 学生たちと撮影



職人の指導の下、学生たちにレンガを触ってもらいました。女の子は1枚でこんなに重いんだと驚いていました。男の子の中には、これくらい何枚でも持てるよと言って、3~4枚一気に持とうとしている子どももいました。学校建設で子どもたちは建設作業の大変さを知ることができました。将来は自分も建設作業をしたいという子どもも出ています。

### 屋根瓦の開封



どうもありがとうございます。